

秋 分 儀 式

I :: O :: S :: 儀式魔術文書 AE99A

第 1 章	解 説
1	司官の配置
2	アストラル神殿の構造
3	身辺の準備
第 2 章	儀 式
	神殿への入場
	ウシャブティ
	マルクト神殿
	ティファレト神殿
	カイオスの召喚
	流れる術式
	PWの交換
	宇宙の主への賛歌
	竜の逆周行
	カイオスの帰還
	マルクト神殿
	地上への帰還

THE OFFICIAL ORGAN
OF

I :: O :: S ::

PUBLICATION IN CLASS D
IMPRIMATUR : M FRATER I :: O :: S ::

THE AUTUMN EQUINOX CEREMONY FOR ASTRAL WORKING
I :: O :: S :: ASTRAL TEMPLE WORKING

第1章 解 説

本儀式は、小規模な団内グループ(ロッジ単位程度)が、簡易な準備で行える霊的集合儀式(Astral Temple Working)として作成した。従って、実行儀式よりも簡略化した部分がある。《春秋分点》は、「均衡と調和」を表象する宇宙的な時刻である。年に2回の分点において、太陽の運行または振動と地上の四大元素が融合する。本儀式は、原則的に秋分点の前後48時間以内に実施すること。本儀式では、ケテル神殿を核として実践する。

儀式内容は、アリのイクディムとアブラハム・アブラフィアの文字変換(ツェルフ)の技法を基礎に置いている。また、《黄金の夜明け団》の「竜の天球」と結びついている。本儀式においては、「循環する術式」又は「流れる術式」が用いられており、ケテル神殿のなかにイエツィラーのマルクトの水を投影する。儀式に関連する魔術理論については、『黄金の夜明け魔術全書』下巻「北極周辺の四エースに象徴される諸力の渦巻き周天の法則」及びアレイ・カプラン著『瞑想とカバラ』を参照すること。

1 司官の配置

a 司官の指定

本儀式に必要な司官の人数は、次の5人である。

それぞれの太守(ドミヌス)は男性形の天使を、貴婦人(ドミナ)は女性形の天使を神の姿形として纏う。それぞれの天使はカイオト・ハ・カドシュ天使団に属し、五界、すなわち、アダム・カドモン、アツィルト、ブリアー、イエツィラー、アッシャーを体現する《聖名を冠するカイオス》である。

DOMINUS COLUMUNA (DC)	柱の太守	= K D M R V N (カドマラン)	= 大きな貌
DOMINUS VASTITAS (DV)	砂漠の太守	= A T z L I M (アツィリム)	= 父
DOMINA PONTUS (DP)	深淵の貴婦人	= B R M V R (ブリモール)	= 母
DOMINUS AURORA (DA)	夜明けの太守	= I T z I A L (イツィエル)	= 小さな貌
DOMINA BOREALIS (DB)	極北の貴婦人	= O S h S h V N (アシャーン)	= 花嫁

かれらの携える魔術武器は、次のとおり。

DCは、手に何ももたないが、七つの星を飾る黄金の冠をかぶっている。DVは、羊飼いの長大な木の杖。DPは、青銅の杯。DAは、銀の頭飾り。DBは、宝石の首飾り。

b カイオト・ハ・カドシュの召喚

五人の司官は、ケテル神殿のなかでカイオト・ハ・カドシュを召喚し、「肉の衣を去る」までは、実効上の天使として活動する。ちなみに天使の言う「肉」とは、魔術師の「光体」のことである。

カドマランのテレスマ的イメージ

強い意志力を放射する男性形の天使。その翼は六つの方位に光の波を放っている。七つの星を飾った黄金の冠を被り、紫色の後光を放つ黒髪の下に生命力に溢れた決然とした支配者の風貌がある。緑の襟飾りに巻かれた首筋は、やさしく女性的な丸みを帯び、オリブ・グリーン網目状の模様の描かれた長袖の長衣に覆われた二の腕は夢を紡ぐ銀の糸で仕立てられている。前で割れた長衣の間に太陽の紋章をあしらった薔薇色の胴衣が覗いており、その胸板は頑丈そうに厚い。オリブ色のズボンでも隠しきれない強靱な太股に、蠟の甲羅のような模様の靴がアクセントを添えている。

アツィリムのテレスマ的イメージ

優美な精悍さを備えた男性形の天使。その光翼は燃え上がる焔のように背後で融合し、上空に吹き抜けている。エメラルド・グリーンの飾り紐で束ねられた長く艶やかな黒髪が肩まで垂れている。茫漠とした神秘的な面に良く光る思慮深い瞳が周囲を見据えている。山羊の毛織物の肩掛けを纏い、細いが強靱な右手に羊飼いの長老たちが持つような節くれ立った背丈ほどもある木製の杖を軽々と握っている。緑灰色の波打つような深い襟割りの青緑の長衣が脚までを覆い、長衣の裾からオリブ色に彩色された革靴が覗いている。

ブリモールのテレスマ的イメージ

重厚なほど落ち着きを備えた女性形の天使。その光翼は背後にたたまれてほとんど見えない。螺旋状に巻いた長い髪には初老の兆しを示すかのように銀髪の筋が混じっているが、

誇り高く思慮深い表情とその頬には老齢を表す兆しはない。彼女の琥珀色の肌は艶やかに輝き、荒れ野で生活できるようなオリーブ色の毛織りの外套に包まれた肉体は優美で、その動作は流れる水を思わせる。その外套の胸に抱き込むように百合の花のような青銅製の杯を携えている。彼女は琥珀色の素足で神殿の草地を歩んでくる。

イツィエルのテレスマ的イメージ

軽快な瘦身の男性形の天使。その光翼は鷲の風切り翔のように鋭角に光の波を放射している。銀細工の頭飾りを緑灰色の飾り紐で留めている。その表情は精悍で、かつ、煌めく星空のように豪奢でもある。緑灰色の胴衣は細身の身体に貼り付くように仕立てられ、袖無しの肩口から繊細な細い腕が伸びている。深青緑のタイツが山羊革の軽そうな靴まで、長い脚を包んでいる。

アシャーのテレスマ的イメージ

聳え立つような長身の女性形の天使。その光翼は周囲を睥睨するように放散している。印象的な太く黒い髪が豊かに波打ち、鼻梁の通った彫りの深い顔立ちのともすれば酷薄に見える鋭さをうち消している。襟割りの深い胸元には12色の宝石が飾られ、焦げ茶色のゆったりとした外套を纏った彼女の腕の飾り紐とともに装身具の要となっている。オリーブ色の肌着には草花の刺繍が施され、編み目模様の茶色のスカートと鮮やかな対比をなしている。彼女は素足で神殿の草地を踏む。

2 アストラル神殿の構造

a ケテル神殿の配置

神殿は、青天井の円形の庭園として存在しているが、およそ境界線というものが存在しない不思議な空間を形作っているため、外部との通路は、おおむね南東、南、南西に細い径が続いているほか、明確な仕切というほどのものはない。

当然のことながら、これらは、アレフ（南西）、ギメル（西）、そして、ベト（北西）の小径に対応する扉のある位置である。しかし、扉自体は遠景に溶け込んで見えない。ただ自然な地肌に緑の丈の低い草が茂った両手をひろげたほどの幅の小径がどこまでも続いているだけである。

苑の内部はうららかな春の日射しに照らされて、地球の歴史上存在した、或いはこれから存在するかもしれない無数の草花や、樹木の枝を飾る花が今を盛りと咲き誇っている。境界が不明確ならば、高低もなく中心の分からない庭園の内部に整然と調和のとれた草木が不在の主を称えるかのごとく無言の美の歌を唱和している。

中央のギメルの小径を花々を愛でながら登っていくと、三本の小径が交わり、樹木のない薄緑の円形の草の敷地が現れる。草原というには少し狭いが、その中央には木製の祭壇が据えられ、祭壇の東側には2本の灌木が立っている。右の樹木は白い樹皮に覆われ、その柔らかい肉厚の葉は黄金の輝きを放っている。左の樹木は黒檀のように黒く輝く樹皮に銀の輝きを宿した鋭利な外見の葉を茂らせている。その2本の木の間に地面から僅かに顔を覗かせた緑の木の苗が芽吹いている。

3 身辺の準備

a 部屋の準備

部屋を暖かくし、プライバシーを保護できるような態勢づくりをする。（家族に部屋に入らないように断ってからドアの鍵を閉める等）、携帯電話、アラームの類はあらかじめ切っておく。部屋の中央に椅子か、ソファを置き、その他の不要なものを片づける。

b シナリオ

シナリオ文書を一部、手軽に確認できる場所に置く。シナリオの流れを暗記できなかったら、自分以外のパートの台詞とト書をテープに吹き込んでおく。

c 直前の手順

開始する前に手を洗い（儀式的沐浴）、法衣（または身体を締め付けない服装）に着替え、LBRPを行って椅子に座り、中央の柱の行法で活性化する。

第2章 儀式

参加者は、座ったまま目を閉じ、自分のアストラル的姿形を形成する。前方に光体を形成する。自らが輝く光の法衣を纏う様子を強く視覚化する。

光の法衣の着用が終了したら、沈黙し儀式の背後にある意味を黙想しつつ待つ。

DC、DA、DV、DP、DBの順番で神殿に入る。

順番が来たら、自分の光体の身体を立ち上がらせ、肉体を脱ぎ捨てたまま、前に進み光のトンネルを通過して、アストラル神殿の外庭に着地し、扉の前に立つ。マルクト神殿のヤキンとポアズの柱を通過し、青銅の扉に面すると、扉の表面に刻まれたI O Sの三文字が内側から光を発し、扉は音もなく両側に開く。

神殿の内陣広間に通じる廊室において、入場の順番に司官たちが並ぶ。

先頭に立ち、集まった参加者を振り返るDCが静かに命じる。「ウシャブティを纏うべし。」DCは、率先して「小神像（ウシャブティ）」を纏う。

すなわち頭頂の光球から光を拡散し、やわらかな膜のような形に引き延ばして、喉の光球に結びつけ、さらに胸と背を通して、胴の光球を振動させ、腰を振動させ、最後は足下の光球を振動させ、全身をひとつの巨大な光の膜で包み込んでしまう。その無定形のオーラの卵を好みの神、天使、神話的形態に変化させる。この場合は、司官は顔のないアケファロスの姿形をまとう。参加者は、文字通りエジプト神話の代理神像である直立した人間の姿をもつ霊的姿形を纏う。

DCが、マルクト神殿の市松模様の床に最初の一步を踏み入れる。

東に立ち、呼吸と中央の柱で魔法鏡を活性化したのち、神殿の境界までオーラを拡張し、神殿を黄金の光で満たす。これらが完全に成し遂げられたら、神殿の中央に立ち、西を向き合図の鈴を鳴らす。

DCの霊的な鈴の合図で、DAを先頭に廊室から入場を開始する。

最初にDAが入室して、北を通過して、東の壁に行き、東を向いて立つ。続いてDVが入室して、右回りに3／4周し、南壁の中央に東を向いて立つ。DPが続き、1周して西側の壁、外部の通廊の右手に立つ。司官としては最後にDBが入室し、1周と4分の1周り、北の壁に東を向いて立つ。他の参加者は、DBの後を追ひ、女性はそのまま北の壁に、男性はDBが止まったあとさらに半周して南の壁に並ぶ。

DCは、内側を向いたまま次の言葉を宣言する。

DC：「ヘカス ヘカス エステ ベペロイ I ∴ O ∴ S ∴ ———— ロッジの兄弟姉妹たちよ。

われらは、上位の神殿へ続く小径を開かん。

DOMINA BOREALISよ。四大の風を召喚し、大河フラトの面を波だたせよ。」

北に立つDBは、その場で半回転し、神殿の中央を向くと、静かに、しかし断固たる口調で次の宣言を行う。

DB：「われはマルクトに流れ込むフラトの水門の扉の上に立てり。

四大の風を召喚し、水門を閉じる輪留めを回転させん。」

DBは、神殿の壁に沿ひ東に行き、DAの後ろに立ち、その上半身を支えるように両肩に手を当てる。

DB：「風の風を召喚せん。DOMINUS AURORAよ、われに唱和されよ。」

DB／DA：「鮮やかなる光の風よ、東からわが息吹を満たせ。」

DBとDAが、シュレクの韻を用いて、前方、つまり東の宇宙から風の風を召喚する。

二人は、首をほぼ水平にしたまま前方に突きだし、ゆっくりと引きながら、シュレクの韻を唱和する。

DB／DA：「U u u u u u u u u u」

その振動に呼応して、神殿の東の壁が黄色く発光し始める。風旗を引き剥がすような勢いで、その黄色い光の中心から爽やかな風が神殿のなかに吹き込む。

シュレクの振動をやめると同時に風が止む。

DBは、神殿の壁に沿ひ南に行き、DPの後ろに立ち、その上半身を支えるように両肩に手を当てる。

DB：「火の風を召喚せん。DOMINUS VASTITASよ、われに唱和されよ。」

DB／DV：「灼熱の風よ、南からわが息吹を満たせ。」

DBとDVが、ツェレの韻を用いて、南の宇宙から火の風を召喚する。

二人は、首を右にスライドさせ、左へ動かす儀礼的動作をしながらツェレの韻を唱和する。

DB／DV：「E e e e e e e e e e」

その振動に呼応して、神殿の南の壁が赤く発光し始める。火旗を引き剥がすような勢いで、その赤い光の中心から熱気を孕んだ風が神殿のなかに吹き込む。

ツェレの振動をやめると同時に風が止む。

DBは、神殿の壁に沿ひ西に行き、DPの後ろに立ち、その上半身を支えるように両肩に手

ビナーの意識を喚起されたDVは、宣言する。
DV：「ピソンの流れを制する水門は、シャラクの法により、開きつつあり。」

DC：「DOMINA PONTUSよ。ダマムの法により大河ギホンの面を波だたせよ。」

南東に立つDPは、その場で半回転し、神殿の中央を向くと、静かに、しかし断固たる口調で次の宣言を行う。

DP：「われはケセドに流れ込むギホンの水門の扉の上に立てり。

水の音を召喚し、水門を閉じる輪留めを回転させん。」

DPは、再び南東を向き、神殿の壁にIHVHを刻印する。その火文字が燃え上がり、自らの靈魂のルアクの部分が神名に共鳴しながらキアに高揚するまで振動率を高めていく様子を瞑想のなかで実感せよ。引き続いて、その場で全身を用いてヘブル文字のメモをハミングとして連唱する。

DP：「Mmmmmmm・・・・・・」

そのうなり（DMM）に呼応して、神殿の南東の壁が黄色がかった緑色に発光し始める。その中心から、歯車の回るような機械音が響きわたる。

コクマーの意識を喚起されたDPは、宣言する。

DP：「ギホンの流れを制する水門は、ダマムの法により、開きつつあり。」

DC：「DOMINUS AURORAよ。最後に大河ヒデケルの面を波だたせよ。」

東に立つDAは、その場で半回転し、神殿の中央を向くと、静かに、しかし断固たる口調で次の宣言を行う。

DA：「われはティファレットに流れ込むヒデケルの水門の扉の上に立てり。

イクドを完成し、水門を閉じる輪留めを回転させん。」

DAは、再び東を向き、神殿の壁にIAHHVHHを刻印する。その火文字が燃え上がり、自らの靈魂のルアクの部分が神名に共鳴しながらイエキダーに高揚するまで振動率を高めていく様子を瞑想のなかで実感せよ。引き続いて、アブとサグによるテトラグラマトンの変換を行う。

DAは、コクマーの意識に共鳴しながら、アブの変換によるテトラグラマトンを発音する。

DA：「I V D H I V I V H I（ヨード ヒー ヴィープ ヒー）」

DAは、ビナーの意識に共鳴しながら、サグの変換によるテトラグラマトンを発音する。

DA：「I V D H I V A V H I（ヨード ヒー ヴァープ ヒー）」

DAは、コクマーとビナーを融和させながら、次の言葉を振動させる。

DA：「I a h h V i h h（ヤー・・・ ヴィ・・・）」

その神名に呼応して、神殿の東の壁が深い青色に発光し始める。その中心から、歯車の回るような機械音が響きわたる。

DAは、宣言する。

DA：「ヒデケルの流れを制する水門は、イクドにより回され、開きつつあり。」

四大聖河のひとつヒデケルの茫漠たる流れが神殿に引き込まれた。
神殿の内部を満たす空気に青い天上の水が質を変えて、目に見えるほど濃密に満たされている。それと同時に神殿内部の参列者は、風の水の強い浮力で身体が半ば浮き上がるのを感じる。DCが東の壁を指した。儀式的東方の中心点、ギメルの扉が明滅し始めた。参加者全員が前方からの強い引力を感じる。

DCは、DAを通り越し東の中央の扉に向かい《ヴェールを開く》合図を行う。タウの扉は、強い青の光で輝いた。

DCは、右手で、扉の上に矢のサインを描く。

正面のギメルの扉は、爆発的な青の閃光を放つと、扉の表面が一瞬に消滅するごとく開いた。開け放った扉の奥に青い霧が立ちこめた小径が見える。

参加者全員は、巨大な見えない手で前に押しやられるように、神殿の床面に触れるか触れないかの漂う姿勢のまま、東方からの引力に従い前進し、扉に吸い込まれていく。

DCの声が朗々と響く。

DC：「主は、良き深みを定めたまえり。」

DC（霊）は、率先して小径に入り、先ほどと同じく、DV（火）－DP（水）－DA（風）－DB（地）の象徴順序で、ギメルの小径を越える。

ケテルの神殿に入る。

一同は、無数の花の咲き匂う小径を苑の中心に向かって歩いている。

赤い灌木を越えると円形の草地が現れる。ここで、一同は周行することなく扇形に配置につく。すなわち、DCが木製祭壇の西側、DVが南西、DPが北西、DAが西、DBがDAの背

後につく。他の参列者は、男性は南西から西の草地の端に、女性は北西から西の草地の端に位置する。

各司官は、祭壇の方を向いて、今一度アケファロスの神の姿形を玉座に相応しい巨大な姿に拡大していく。

全員が自分の位置についたとき、

神殿の北西にあるDPが発言する。

DP：「無数の星々が蜉蝣集し、光の河を生み出したり
汝の白熱する鉄鉤が宇宙の火花を掬いあげる。
Y i H i V i H i
Y i i H i i V i i H i i
Y i i i . . . H i i i . . . V i i i . . . H i i i . . .
アツィルトの投影を支配する天使ATZLIMよ
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

南西に立つDVの上に覆い被さるように出現する巨大な天使像が、DVのウシャブティの上に重なった。アケファロスの顔のないオーラに、天使アツィリムのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDVの霊的外形が急激に変化する。DVが答える。

DV：「われは、カイオス・アツィリム。
ABBAの紋章の守護者にして
竜の第1のとぐろを支える天上の火の運び手なり。」

神殿の南西にあるDVが発言する。

DV：「大いなる光の海が汝の前に広がり
太陽の獅子吼を反射する水、光に見まがう水面こそ汝が真骨頂なり
Y e H e V e H e
Y e e H e e V e e H e e
Y e e e . . . H e e e . . . V e e e . . . H e e e . . .
ブリアーの投影を支配する天使BRMVRよ
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

北西に立つDPの上に覆い被さるように出現する巨大な天使像が、DPのウシャブティの上に重なった。アケファロスの顔のないオーラに、天使ブリモールのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDPの霊的外形が急激に変化する。DPが答える。

DP：「われは、カイオス・ブリモール。
A I M Aの紋章の守護者にして
竜の第2のとぐろを支える天上の水の運び手なり。」

神殿の西に立つDBが発言する。

DB：「宇宙の東の地平線より、霊の太陽が昇らんとする。
光にまで昇華した風が汝を呼ぶ。
Y o H o V o H o
Y o o H o o V o o H o o
Y o o o . . . H o o o . . . V o o o . . . H o o o . . .
イエツィラーの投影を支配する天使ITZIALよ
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

西に立つDAの上に覆い被さるように出現する巨大な天使像が、DAのウシャブティの上に重なった。アケファロスの顔のないオーラに、天使イツィエルのテレズマ的姿形が融合し、再形成されてDAの霊的外形が急激に変化する。DAが答える。

DA：「われは、カイオス・イツィエル。
ミクロプロソポスの紋章の守護者にして
竜の第3のとぐろを支える天上の風の運び手なり。」

西からDAが発言する。

DA：「不動の大地に潜む力よ、脈動する潜在力、
密かに育む深奥の息吹、伏在する龍こそ汝の名なり
Y u H u V u H u
Y u u H u u V u u H u u

Y u u u . . . H u u u . . . V u u u . . . H u u u . . .
アッシャーの投影を支配する天使 O S h S h V N よ。
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」
西にいる D B は、背後の地平線から覆い被さるように出現する巨大な天使像をウシャブティ
の上に纏う。アケファロスの顔のないオーラに、天使アシャーンのテレズマ的姿形が融合し、
再形成されて D B の霊的外形が急激に変化する。D B が答える。
D B : 「われは、カイオス・アシャーン。
マラカーの紋章の守護者にして
竜の第 4 のとぐろを支える天上の地の運び手なり。」

四司官が召喚を終了したとき、神殿の中心から D C が発言する。

D C : 「かそけき神殿の奥底から神秘なる技が生まれん。
われは、宇宙の軸を回さん。
Y a H a V a H a
Y a a H a a V a a H a a
Y a a a . . . H a a a . . . V a a a . . . H a a a . . .
アダム・カドモンの投影を支配する天使 K D M R V N よ
立ちて、この聖なる場を祝福されたい。
汝が御手をあげ、われらに祝福を下されたい。」

祭壇の傍らにいる D C の上に覆い被さるように出現する巨大な天使像がウシャブティを呑み
込む。アケファロスの顔のないオーラに、天使カドマランのテレズマ的姿形が融合し、再形成
されて D C の霊的外形が急激に変化する。D C が答える。
D C : 「われは、カイオス・カドマラン。
マクロプロソポスの紋章の守護者にして
竜を回す軸を支える天上の霊の運び手なり。」

D C が宣言する。
D C : 「祭壇に宇宙の軸を召喚せん。」
四人の司官は、玉座を離れ祭壇に近づいて、両手を互いに握り祭壇を囲む。
D C がその輪の上に手をかざす。
D C : 「生けるエロヒムの霊、永劫にわたり至福を受けんことを
主の声、主の霊、主の言葉、これらが聖霊である。
A a A o A a A a A a A e A a A i A a A u」
D A : 「主は霊より風をつくり、風のなかに文字を置かれた。
A o V o A o V a A o V e A o V i A o V u」
D P : 「主は、原初の水を風のなかから抜き、文字を定められた。
A e H o A e H a A e H e A e H i A e H u」
D V : 「主は、火を水から抜き出し、火によって栄光の玉座を刻まれた。
A i Y o A i Y a A i Y e A i Y i A i Y u」
D B : 「主が雪を文字に注がれると地になった。
A u H o A u H a A u H e A u H i A u H u」

D C が宣言する。
D C : 「大いなる周行をもって、飛翔する竜の術式を執行せん。」

四司官は東を向き、D V、D P、D A、D B の順に西の草地の端に並ぶ。
D V が右回りの周行を開始する。ただし、草地の外周を回るのではなく、西～北西～祭壇の
西～南西～西と扇形の運動を行う。順序の入れ替えは発生しない。
3 周目は、各自の位置の前で停止し、ひとりずつ人数を減じて元の位置に戻る。

D C : 「神秘なる周行は完成し、竜は天球を周回せり。
昼と夜は均衡し、春分は到来せり。」

D V は、祭壇に南西から近づく。
D V は、ホルスのサインを行う。D V と D C は、祭壇の上に身を乗り出し、他者に聞かれぬ
ようパスワードを交換する。
D V : 「全き光に拝礼す。闇は光に内在せり。」

神殿の古きパスワードは・・・なり。」

D VとD Cは、身を離し、D Cがハーポクラテスのサインを行う。D Vは、元の位置に戻る。

次に、D Pが北西から祭壇に近づき、今度はD Cがホルスのサインを行う。両者は身を乗り出して、パスワードを交換する。

D C：「深き闇に拝礼す。光は闇より生まれたり。」

神殿の新しきパスワードは・・・なり。」

身を離し、D Pがハーポクラテスのサインを行う。D Pは、元の位置に戻る。

D C：「パスワードは交換された。」

司官を含めた全員が祭壇を取り囲む。

D C：「腕を組み、手と手を取りて、われらのオーラをひとつに融け合わせよう。

無敵なる主の顕現にあずかりて、われらの靈魂をひとつとなし、祭壇に注ぎ込まん。
そをもちて、この神殿は栄光の場とならん。」

全員が手を組み人間の輪のなかに祭壇を包み込む。手を放すことなく次を唱える。

D C：「主よ。われらは自らを捧げん。わが心臓と靈魂は、汝への絶ゆることなき供物とならん。汝が御手の技の裔を受け、汝の意志のままに与え、奪いたまえ。アーメン。」

D C：「聖なるかな、汝、宇宙の主よ！

聖なるかな、汝、自然の造らざる者よ！

聖なるかな、汝、広大にして強大なる者よ！

光と闇の主よ。」

D C：「聖なる場に神秘なる逆周行を起こさん。」

先ほどとは逆に竜の尾の順序で、D B、D A、D P、D Vの列が西へ向かう。
左回りの周行が始まり、3周し、最後の周行で自分の場に戻って止まる。

D C：「神秘なる逆周行は完成した。玉座を解放せん。」

D B：「H o A u H a A u H e A u H i A u H u A u」

D V：「Y o A i Y a A i Y e A i Y i A i Y u A i」

D P：「H o A e H a A e H e A e H i A e H u A e」

D A：「V o A o V a A o V e A o V i A o V u A o」

D C：「A o A a A a A a A e A a A i A a A u A a」

D V：「イエツィラーの天使カイオスよ。

砂時計を通り、イエツィラーに戻るときが来た。

魔術師の肉体を脱ぎ捨て、光へと帰還せん。」

D C：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。宇宙の韻律と調和に、感謝を捧げん。

主の聖霊は、森羅万象の上にあり、下にあり、内にあり、外にもある。

主よ、生ける霊と人の子らに、法悦と祝福を与えたまえ。

カイオス・カドマランは、肉の衣を去れり。」

D B：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。大地の輝きと喜びに、感謝を捧げん。

主の栄光はあまねく地上を満たし、われらに恵みをもたらしたり。

主よ、地母神たる大地と人の子らに、愛と祝福を与えたまえ。

カイオス・アシャーンは、肉の衣を去れり。」

D A：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。天の音楽の響く大空に、感謝を捧げん。

主の御言葉は、星々の歌声に彩られ、われらに希望をもたらしたり。

主よ、やさしき風と人の子らに、英知と祝福を与えたまえ。

カイオス・イツィエルは、肉の衣を去れり。」

D P：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。生命の生まれ滅する大海に、感謝を捧げん。

主の御手の指は、すべての被造物に、色鮮やかな輝きをもたらしたり。

主よ、万物の生命の母たる水と人の子らに、多様さと祝福を与えたまえ。

カイオス・ブリモールは、肉の衣を去れり。」

D V：「主よ、われらの賛歌を聞きたまえ。躍動する炎の力に、感謝を捧げん。
主の聖なる火花は、砂のひとつぶたりと見逃さず、靈魂をもたらしたり。
主よ、久遠の靈の表象たる火と人の子らに、力と祝福を与えたまえ。
カイオス・アツィリムは、肉の衣を去れり。」

全員：「主よ、われらに祝福あれ。われらは絶えることなく汝を称えん。」

D C：「人の子らよ。カイオスは、去れり。地上に帰還せん。」

D Aが先頭に立ち、左回りに周行する。参列者も同様に約半周し、西の扉を抜けて直接マルクト神殿に向かう。D Cは主祭壇に1礼して、最後にケテル神殿を去る。

一同はマルクト神殿に帰還する。

最後に帰還したD Cが、月の追儼のユニカーサル・ヘキサグラムを描いて小径を閉鎖し、引き続き《ヴェールを閉じる》サインを行う。

D C：「I H S h V HとI H V S h Hの御名において、
この儀式により拘束されし、すべての《靈》を解放せん。」

D Cは祭壇に向き直る。全員が祭壇を向く。

D C：「われは宣言する。神殿作業は終了せり。」

全員：「神殿作業は終了せり。アーメン。」

D Aが先頭に逆周行（左回り）を開始する。D V、D P、D B、南の参加者、北の参加者の順でその後を追ひ、各自が3度周行したら、作業場を出る。最後にD Cが、退出する。

神殿の外庭でウシャプティを解放し、光の洞窟を通過して光体は自分の部屋に戻る。

静かに肉体に戻る。四肢の感覚が戻ったところで、光の法衣を脱ぐ。（特別な手順は必要ない。）静かに目を開き、立ち上がる。

法衣を着用している場合は、沈黙のうちに着替える。

普段着に戻り、儀式についての個人的メモ（『魔法日記』用）を終わるまで、この沈黙を続けるのが望ましい。その後は、軽い食事、飲み物等を採り、地上に帰還したことを自分自身に印象づけること。

VERBORUM PUBLICA
I :: O :: S ::
RITUALE DE
AEQUINOCTIO AUTUMNO

IMPRIMI POTEST: I :: O :: S ::
NIHIL OBSTAT QUOMINUS IMPRIMATUR
IMPRIMATUR : M.E.S.A. 5=6
SEPTEMBER MCMXCIX

秋分儀式 AE99A

Copyrights © All rights reserved I :: O :: S :: 1999
1999年9月15日 I :: O :: S :: 発行

本文書は、複数のまたは個人の団員が、魔術実践の練習のために使用するものであり、I :: O :: S :: の公式儀式手順書ではない。従って、本儀式を公に実施するテンプル、ロッジはその旨を会員に明確に告示する必要がある。しかし、それは同時に本文書を利用した会員の自由な実践活動を妨げるものではない。会員外の使用については、I :: O :: S :: の許可が必要である。本文書の著作権は団に所属する。本文書の内容の一部または全部を、団の文書による許可なく、機械的、電子的、光学的、霊的、その他の手段で複製、引用、転写することを禁じる。